

北海道防災会議地震火山対策部会
火山専門委員会資料

令和 2 年 7 月 30 日
札幌管区気象台

(目 次)

アトサヌプリ	1 ~ 9
雌阿寒岳	10 ~ 24
大雪山	25 ~ 30
十勝岳	31 ~ 46
樽前山	47 ~ 54
倶多楽	55 ~ 62
有珠山	63 ~ 71
北海道駒ヶ岳	72 ~ 76
恵山	77 ~ 83

ア ト サ ヌ プ リ

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2019年7月～2020年6月の発表履歴

変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------	----------------------------

○2019年7月～2020年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①②、図2～9）

監視カメラによる観測では、F1噴気孔群及びF2噴気孔群の噴気の高さは火口上300m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2019年7月30日から31日にかけて実施した現地調査では、アトサヌプリ溶岩ドームに点在する噴気孔や熊落し火口の状況に変化はなく、赤外熱映像装置による観測でも地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。また、2019年7月29日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）、及び2020年2月5日に実施した上空からの観測（第一管区海上保安本部の協力による）においても、地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-③、図10）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

2019年9月1日にアトサヌプリの西約3km付近で発生したマグニチュード1.4（暫定値）の地震、及び2019年10月18日にアトサヌプリの西約2km付近で発生したマグニチュード2.6（暫定値）の地震で、弟子屈町サワチサップでそれぞれ震度1と2を観測しました。これらの地震の震源付近では、過去に同規模の地震が時々発生しています。地震の発生前後でアトサヌプリの火山活動に変化は認められませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図11）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

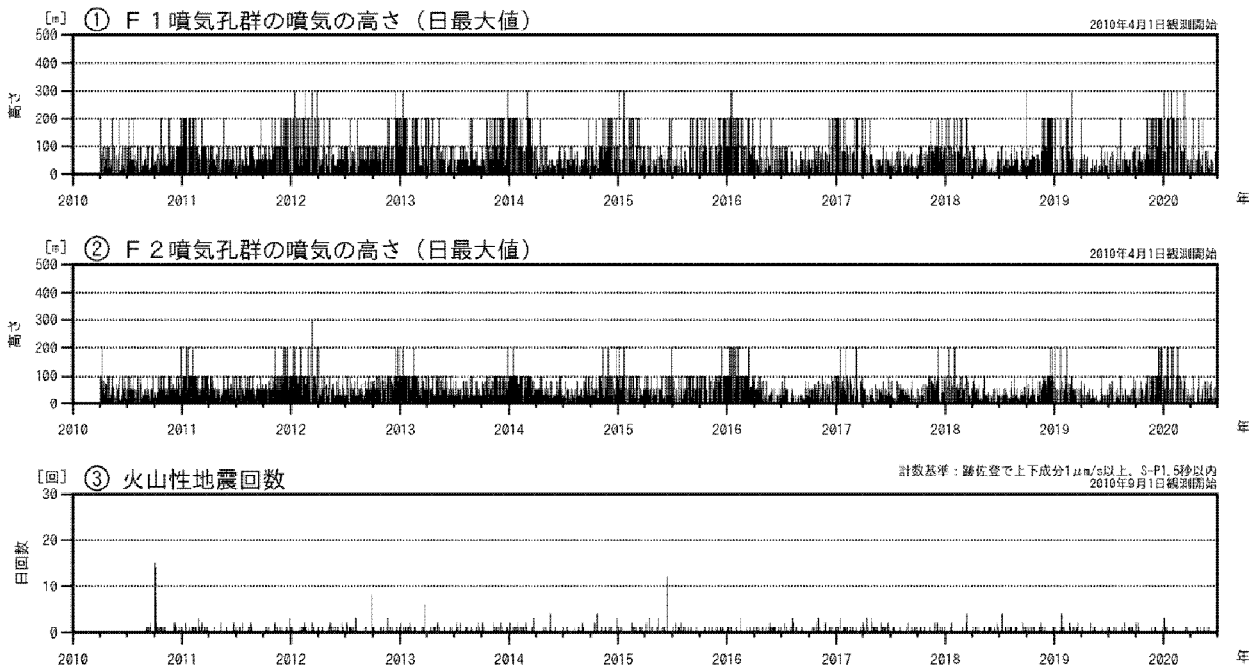


図1 アトサヌプリ 火山活動経過図 (2010年4月～2020年6月)



図2 アトサヌプリ 北東側から見た山体の状況 (6月29日、北東山麓監視カメラによる)

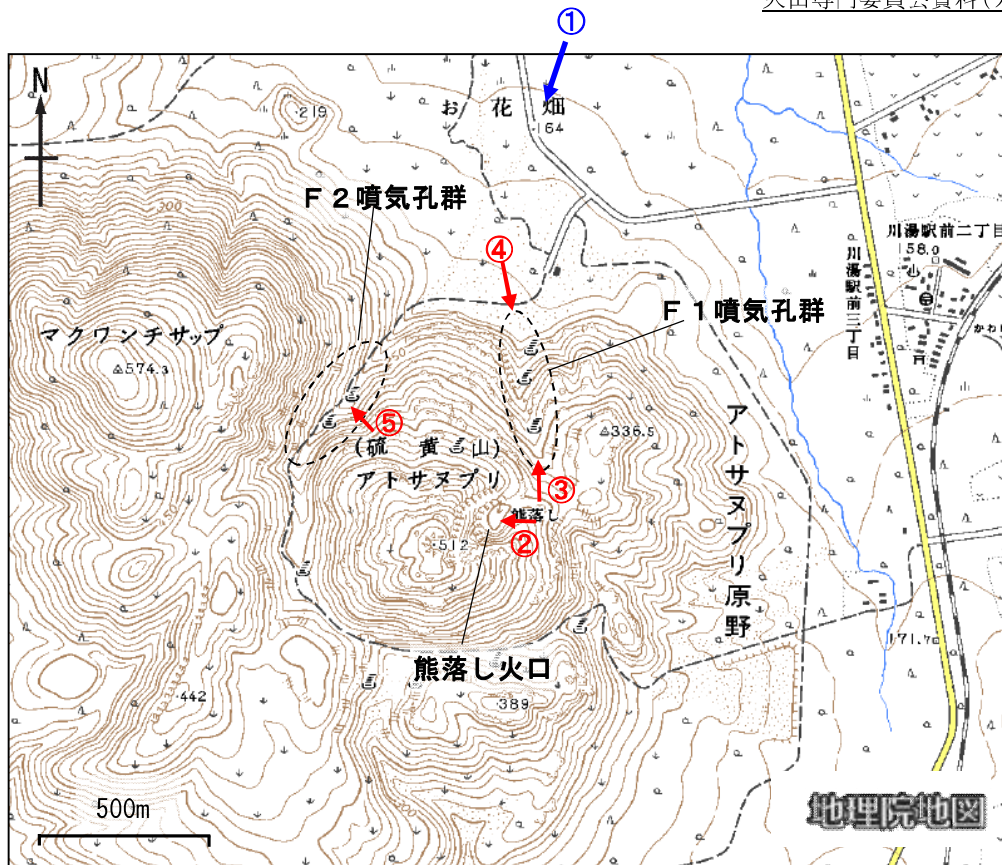


図3 アトサヌプリ 火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向(矢印)
赤矢印は地上からの撮影、青矢印は上空からの撮影を示します。

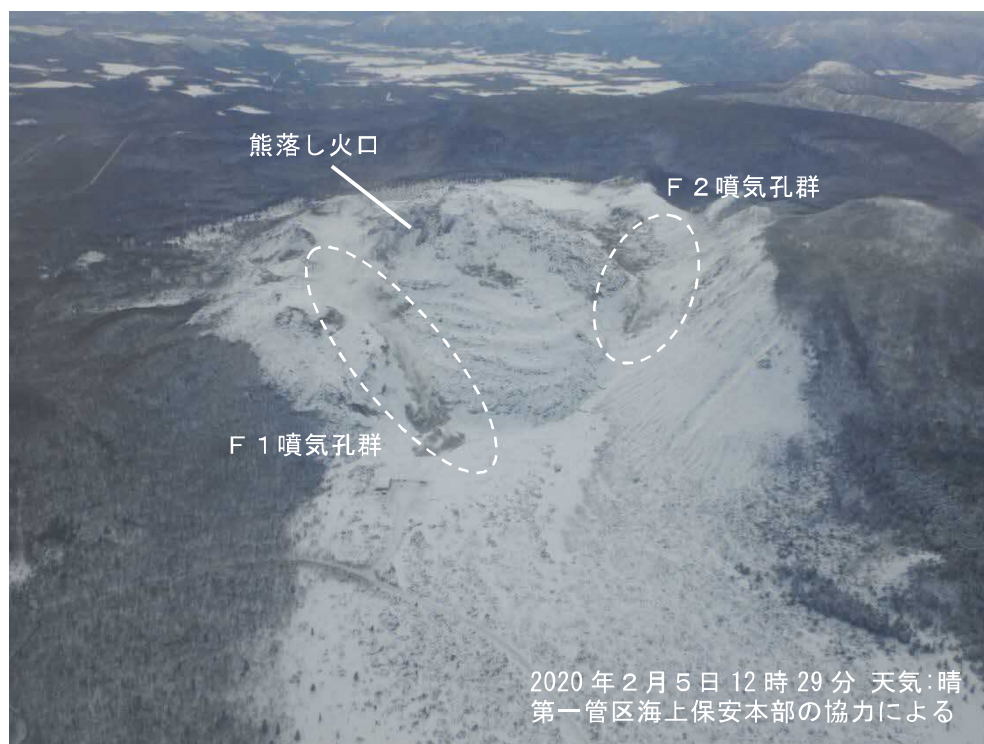


図4 アトサヌプリ 全景 北側上空(図3の①)から撮影

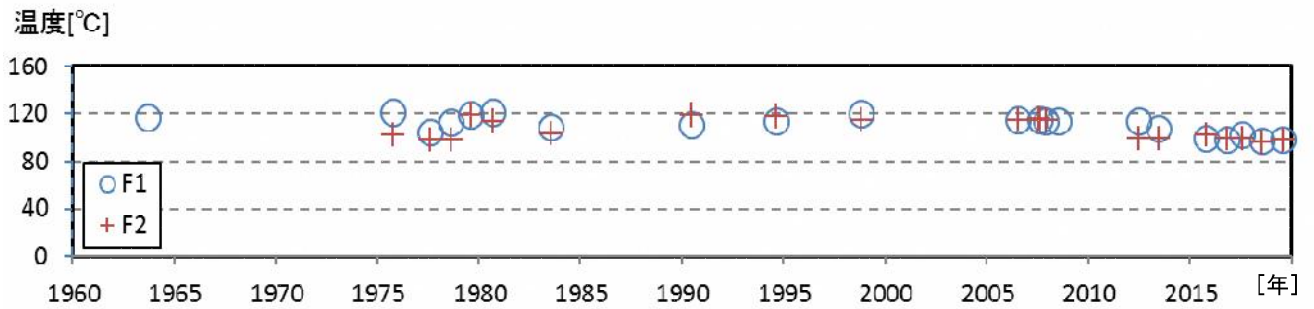


図5 アトサヌプリ 熱電対温度計によるF1・F2噴気孔群の最高温度(1963年～2019年)
・2012年頃から、それ以前と比較して温度はやや低下した状態となっています。

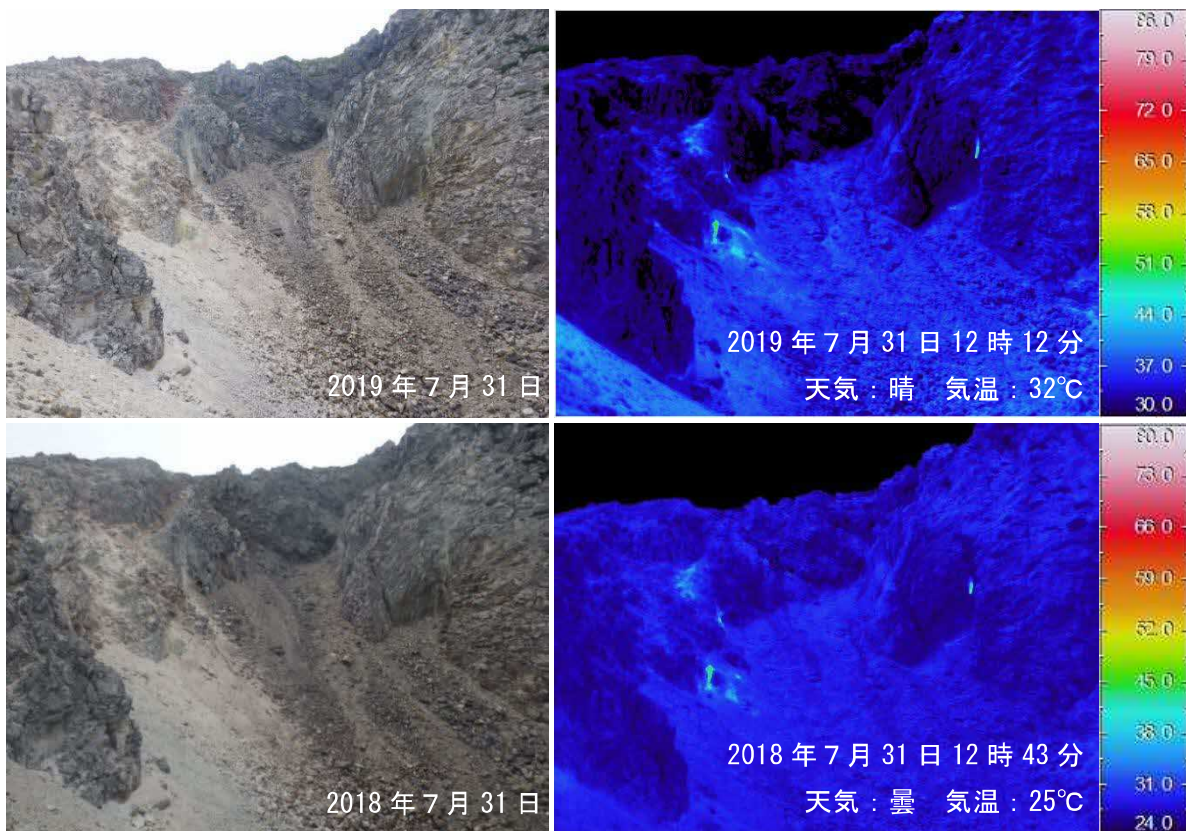


図6 アトサヌプリ 赤外熱映像装置による熊落し火口の地表面温度分布
東側(図3の②)から撮影
・熊落し火口の地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

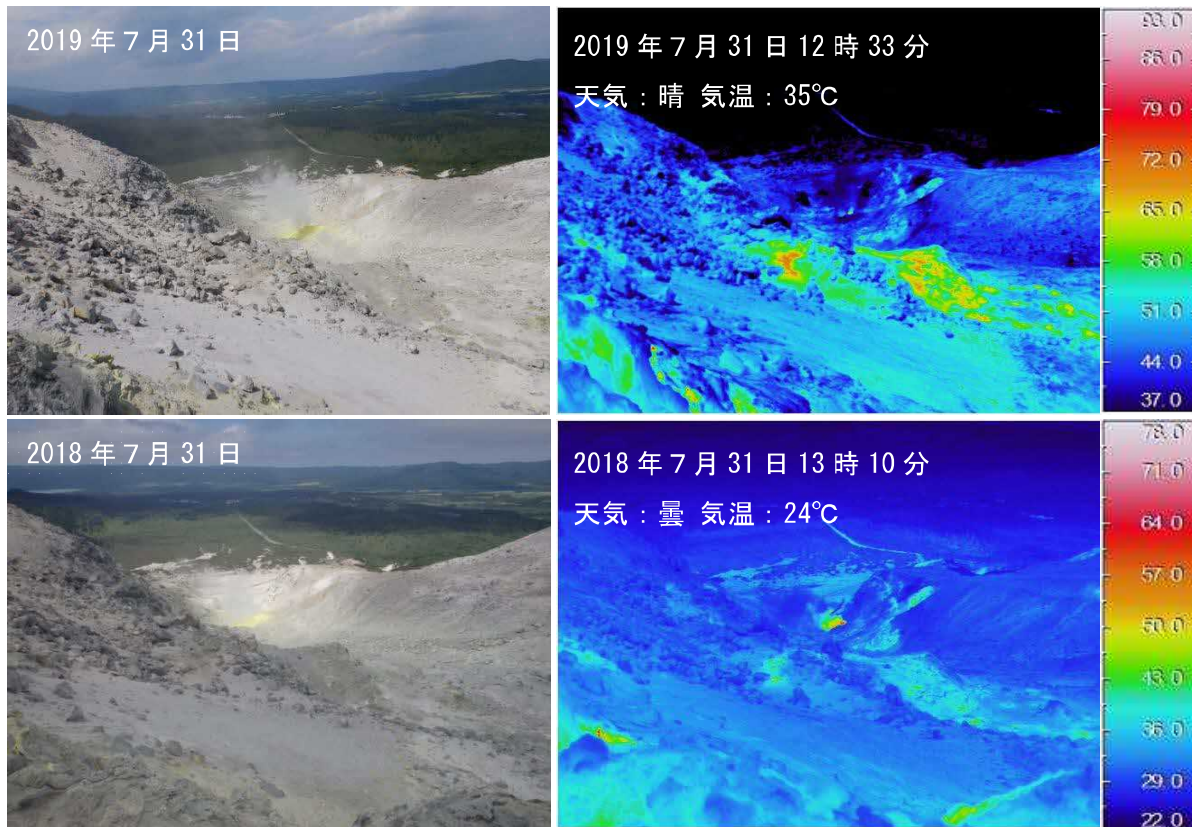


図7 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF1噴気孔群南側の地表面温度分布
南側(図3の③)から撮影

- ・F1噴気孔群南側の地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

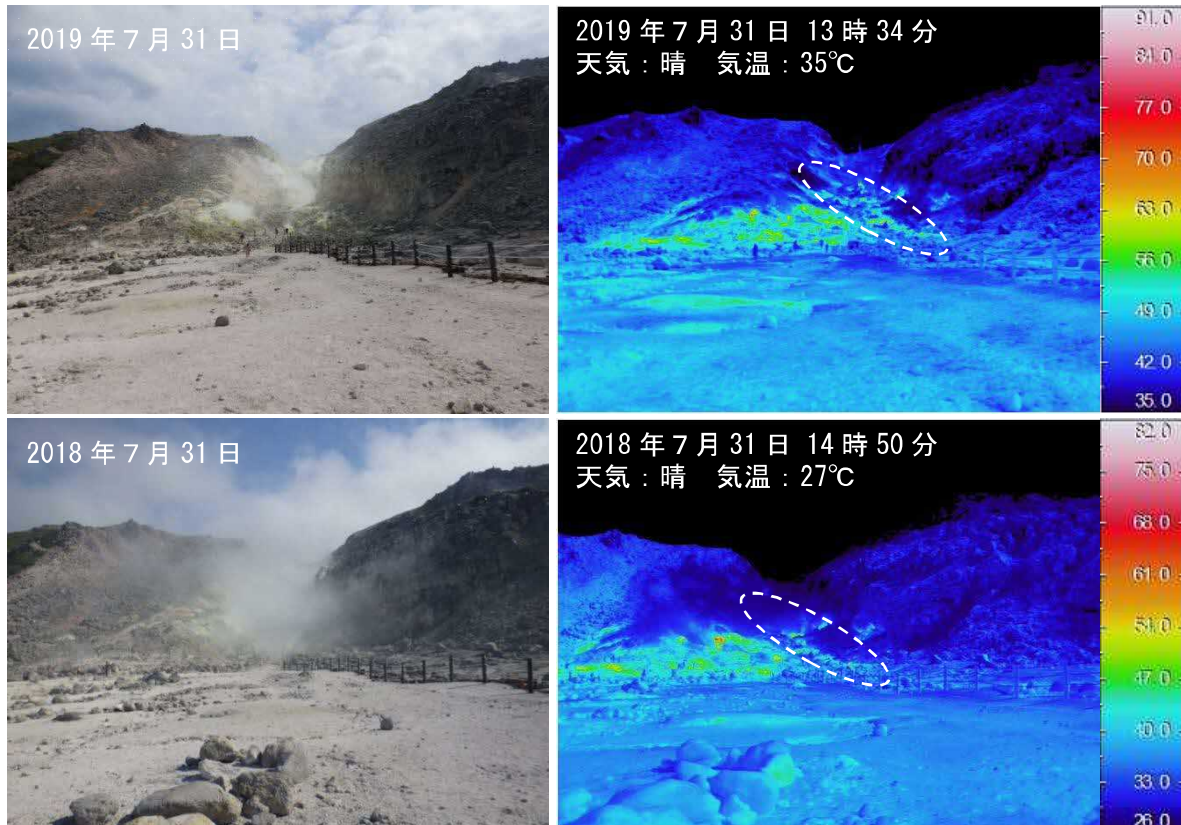


図8 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF1噴気孔群北側の地表面温度分布
北側(図3の④)から撮影

- ・F1噴気孔群北側の地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。
- ・白破線内の違いは噴気の影響と考えられます。

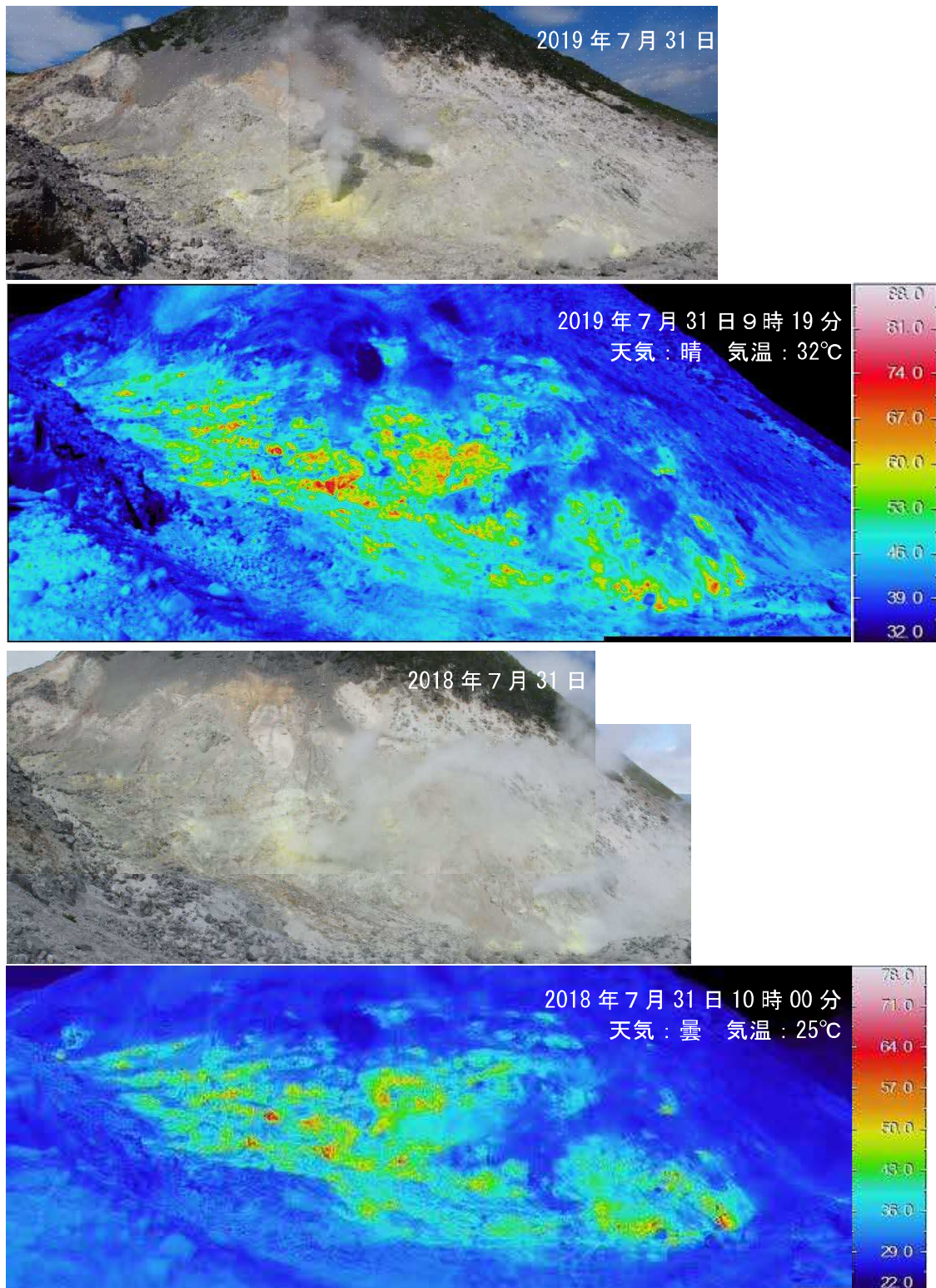


図9 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF2噴気孔群の地表面温度分布
南東側(図3の⑤)から撮影
・F2噴気孔群の地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

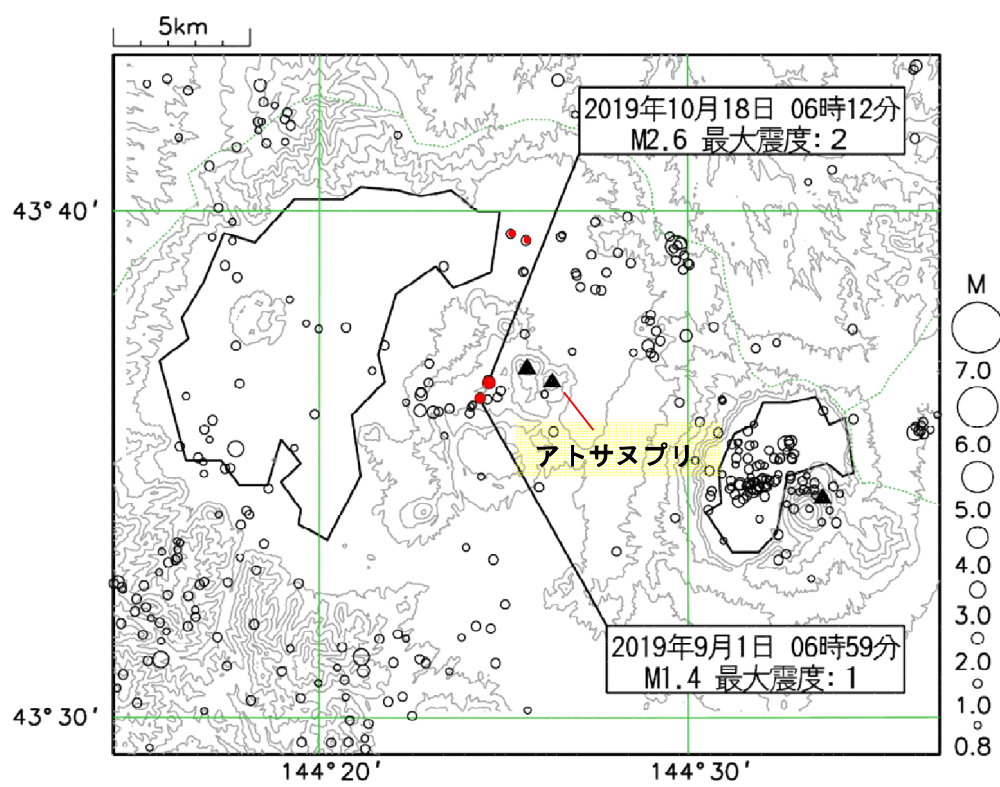


図10 アトサヌプリ 広域地震観測網による山体周辺の地震活動
(1997年10月1日～2020年6月30日、マグニチュード ≥ 0.8 、深さ30km以浅)
2019年7月以降に震度を観測した地震を赤いシンボルで表示しています。

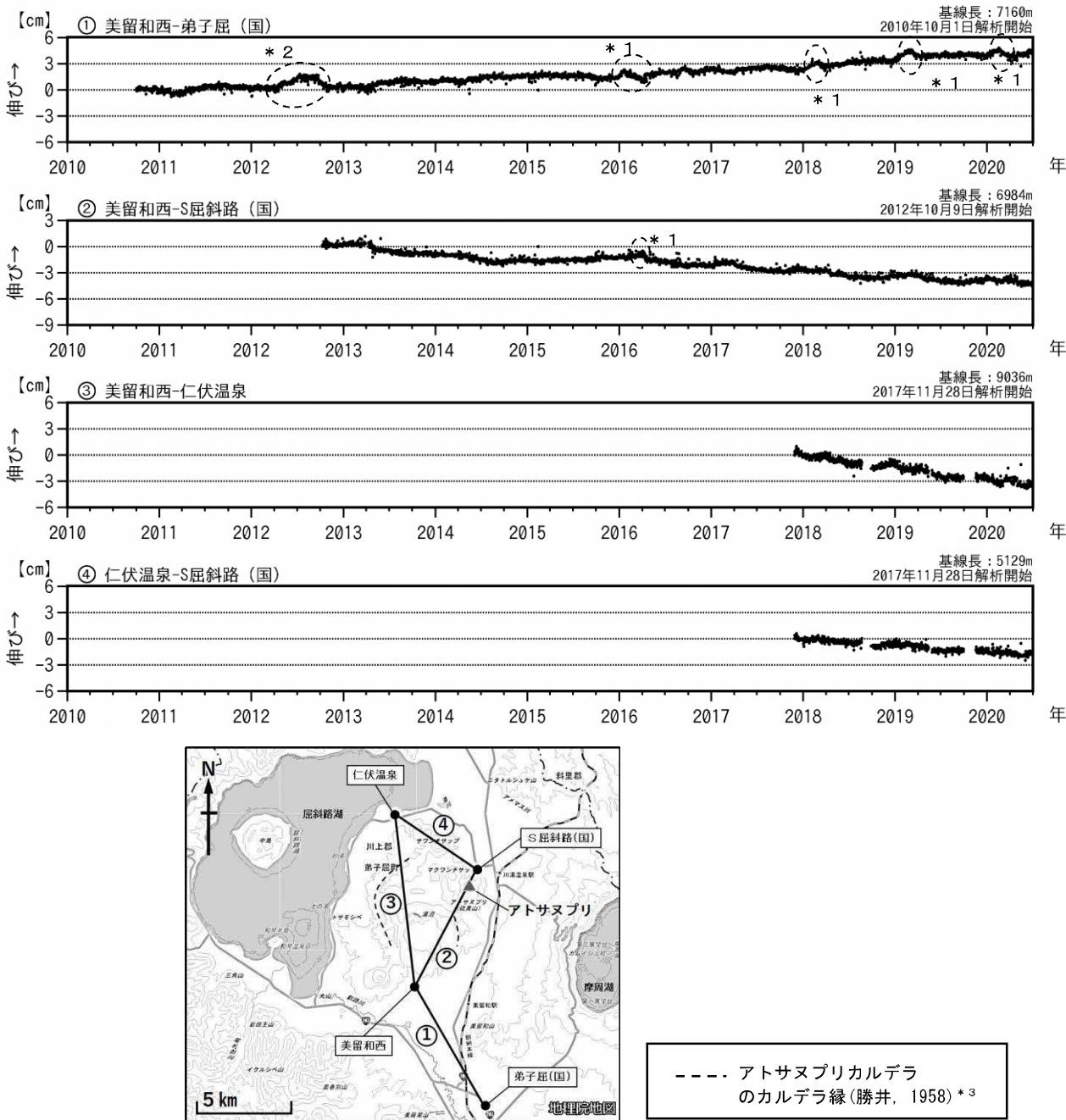


図11 アトサヌプリ GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2020年6月）及び観測点配置図

①～②の黒破線円内の変動（＊1）は、美留和西観測点の局所的な動きによるもので、火山活動によるものではないと考えられます。

①の黒破線円内の変動（＊2）は、弟子屈（国）付近の樹木の影響及び伐採（2012年9月下旬）によるものです。

GNSS基線の空白部分は欠測を示します。

＊3 勝井義雄（1958）阿寒・屈斜路火山群、地球科学、39巻。

・アトサヌプリカルデラを囲む基線②～④で収縮の変化が引き続き認められています。

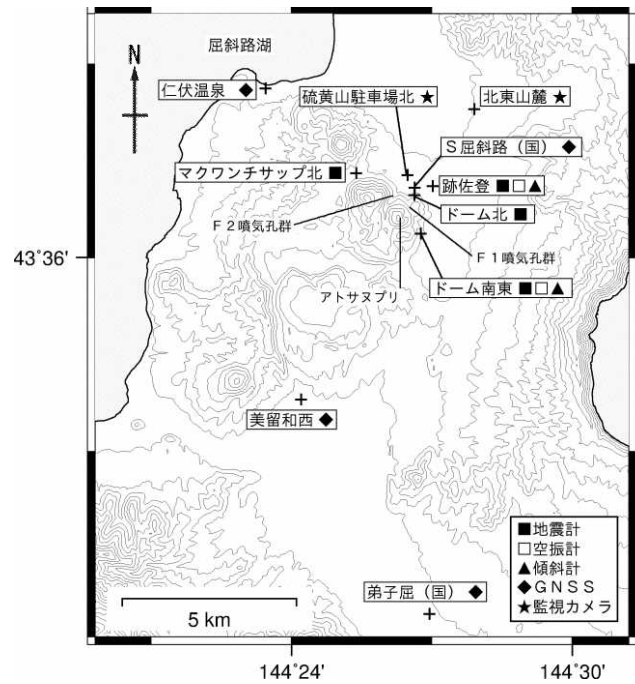


図12 アトサヌプリ 観測点配置図

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院